

姿川地区 将来ビジョン (概要版)

～ ずっと住みたいまち すがたがわ ～

10年後の目指すべき将来像

- 1 自然と歴史を大切にし
新しい文化を創造する 住みやすいまち
(自然環境・生活環境, 歴史・文化)
- 2 みんなが元気で,
思いやり, ふれあい, 笑顔がふくらみ,
親心で子どもがいきいき育つまち
(安心・安全, 健全育成・教育, 健康・福祉)
- 3 全員参加のまちづくりで,
みんなが幸せを実感しているまち
(地域コミュニティ)

将来ビジョンとは

10年後の姿川地区が今以上に「将来、住んでいてよかった、住んでいて幸せだと思えるまち」にしていくためには、現在の地域の現状を踏まえ、将来のまちづくりの基本構想(設計図)を明確に掲げることが必要になります。

その基本構想や設計図が『将来ビジョン』となります。

目標年次

完成年次の10年後(平成34年)の姿川地区の姿を目標に掲げています。

『将来ビジョン』の位置づけ

将来ビジョンは、地域と行政が協力し合い作り上げるもので、双方にとっての地域まちづくりの指針となるものです。

姿川地区が目指すべき『将来ビジョン』

当地区の将来ビジョンは、下記の3点を目指し、策定に取り組みました。

- (1) 地域の総意でつくる実感できる“将来ビジョン”
- (2) 地域生活レベル目線をつくる“将来ビジョン”
- (3) 地域が連携した実行性(実効性)のある“将来ビジョン”

地域の総意のもとでの『将来ビジョン』

将来ビジョンは、地域の総意のもとでの策定が大原則です。

過去6回の「まちづくり」関連のアンケートの結果や地域の強み・弱み、策定委員の思いなどからまとめた「第1次素案」を、全世帯アンケートや自治会長ヒアリング調査の結果などをもとに見直しを行い、地域の総意のもとでの完成版としました。

『将来ビジョン』の体系

将来ビジョンは、「姿川地区の10年後の目指すべき地域像(=アイデンティティ)」を掲げています。

「アイデンティティ」は自然環境・生活環境、健康・福祉、安心・安全、健全育成・教育、歴史・文化、地域コミュニティの6つの分野ごとの「目指すべきまちの状態(=あるべき姿)」を集約して設定しました。

また、6つの分野ごとに「課題」、「方向性」を設け、多方面から多角的に「アイデンティティ」を目指す構成になっています。

さらには、全世帯アンケートなどを踏まえ、地域のニーズやまちづくりの必要性、緊急性から優先順位を付け、分野ごとに順位の高い3つの事業を重点事業として位置づけました。

『将来ビジョン』の実行と評価・見直し

10年後の目指すべき姿をみなさんと築き上げていくためには、姿川地区住民の4万人、一人ひとりのチカラが必要であり、また、一人ひとりの役割が必ずあります。

次ページからの各分野をご覧ください、自分でやってみたいこと、出来ることなど、自分の役割を見つけ、将来ビジョンの実行にご協力をお願いします。

また、将来ビジョンの実行にあたっては、毎年、計画⇒実行⇒評価⇒改善といった、いわゆる、PDCAサイクルに基づき、事業を進めていきます。

さらに、将来ビジョンそのものについても、その前進性、革新性を失うことのないよう、ビジョン実行の成果や住民ニーズなどを的確に捉えるとともに、客観的な評価も踏まえ、必要に応じ、見直しを行っていきます。

“やってみたいこと”
“出来ること”
を見つけ

将来ビジョンの実行に
ご協力を！

語句の説明

アイデンティティ(10年後の目指すべき地域像)

6つの分野の「目指すべきまちの状態(=あるべき姿)」のエッセンスを集約し、「10年後の目指すべき地域の全体像(アイデンティティ)」を表しました。「あるべき姿」は、右記の「あるべき姿」を参照してください。

重点事業

全世帯アンケートの結果などをもとに、地域のニーズやまちづくりの必要性・緊急性などの点から「新規事業」に優先順位をつけ、各分野から順位の高い3つの「新規事業」を「重点事業」として位置づけました。

あるべき姿

6つの柱(分野)の視点から、「地域の現状」や「まちづくりアンケートの結果」などを分析し、各分野の10年後の「目指すべきまちの状態」を示したものです。

課題

「あるべき姿」の状態にするために必要なことを表したものです。

方向性

「課題」を実現・達成するために行うことを表したものです。

本書は、概要版です。本編は、姿川地区まちづくり協議会ホームページ、または、当協議会事務局(当地区市民センター内 Tel658-1594)をご覧ください。

自然環境・生活環境

10年後のあるべき姿は・・・

人と自然が調和し、生活しやすい環境をつくる活動が、地域をあげて継続的・発展的に行われています。

課題① 地域の自然を保全、活用し、親しめる空間にする必要があります。

- (方向性1) 地域に生息する生き物を保全、活用していきます。
- (方向性2) 平地林、里山を地域として保全します。
- (方向性3) 河川沿いの利活用や河川環境保全のための取り組みを行います。
- (方向性4) 地域に生息する動植物を地域のPRに活用します。

課題② 地球環境に配慮したまちづくりを進める必要があります。

- (方向性1) 地域ぐるみで緑化を通してCO₂吸収やヒートアイランド現象防止のための緑を確保する事業を展開します。
- (方向性2) 環境保全型農業を地域で応援します。
- (方向性3) 地域ぐるみで省エネ・省資源行動のライフスタイルを推奨します。

課題③ 景観が美しく、きれいなまちをつくっていく必要があります。

- (方向性1) 地域内の景観を地域で共有する取り組みを行います。
- (方向性2) 地域ぐるみで「花の郷づくり」を推進します。
- (方向性3) 地区内の清掃活動に多くの住民が参加する取り組みを行います。
- (方向性4) 山林等に投棄された粗大ごみ、産業廃棄物の撤去事業や投棄されないための取組みの充実を図ります。
- (方向性5) 空き家、空き地、遊休地などの適正管理を推進します。

課題④ 誰にも優しい交通環境を形成する必要があります。

- (方向性1) 自転車を安全に楽しく利用できる地区を形成する取り組みを行います。

課題⑤ 住民の環境活動の充実を図る必要があります。

- (方向性1) 地域内小中学校が実践している環境教育を支援します。

●重点事業

1	サイクリングロードの整備や鉄道駅へのレンタサイクル拠点の設置を推進します。(課題④－方向性1)
2	鶴田沼・上欠沼を“生きものホットスポット”として、保全、活用し、生き物に親しめる空間をつくる事業を展開します。(課題①－方向性1)
3	ごみ拾いに参加してくれた人に、花苗などを配る「クリーン・グリーン姿川作戦」を展開します。(課題③－方向性3)



10年後のあるべき姿は・・・

地域ぐるみで、心身ともに健康な人づくりと安心して暮らせるための仕組みづくりに取り組み、子どもからお年寄りまでの誰もが各々のライフステージで、楽しく、前向きに、充実した人生を謳歌しています。

課題① 相互扶助のもと生涯にわたり安心して暮らせるようにする必要があります。

- (方向性1)生活弱者を支援していく仕組みを構築していきます。
- (方向性2)効果的・継続的な福祉活動ができる仕組みを自治会単位で構築します。
- (方向性3)幾重にも及ぶチェック機能を備えた、多方面からの効果的な高齢者サポート体制を構築します。
- (方向性4)隣近所など、小さいエリアのなかでの日常的な声かけ運動を展開します。

課題② 誰もが地域の中で快適に暮らしていける風土づくりを行う必要があります。

- (方向性1)地域住民への福祉に対する理解を深める事業を展開します。
- (方向性2)地域行事のなかで障がい者と健常者とが交流を図れる活動を行います。
- (方向性3)地域全体のバリアフリー化に向けた取り組みを行います。
- (方向性4)ひとの命と心を大切に思う取り組みを行います。

課題③ 地域ぐるみで健康づくりを進める必要があります。

- (方向性1)無理なく、楽しく、継続して体を動かすことのできる事業を展開します。
- (方向性2)「ともに健康になろう」という機運を高め、健康づくりを実践する住民を増やす事業を展開します。
- (方向性3)身近なところで、自分の体の状態を確認する機会を増やす取り組みを行います。
- (方向性4)心身ともに健康な住民を育成する事業を展開します。
- (方向性5)既存施設を活用し、身近な健康づくりの拠点を増やす取り組みを行います。
- (方向性6)健康面からも「自転車」利用の推進を図っていきます。
- (方向性7)運動をするきっかけとなるイベントを開催します。

課題④ 誰もが生きがいをもって暮らせるようにする必要があります。

- (方向性1)地域の文化を次世代に伝える活動を行います。
- (方向性2)自ら進んで、生涯学習や生涯スポーツを行える機会の充実を図ります。
- (方向性3)地域のなかで貢献したい人と活躍できる機会・場のマッチングの充実を図ります。
- (方向性4)多くの仲間と活動することで、地域のなかの一員であるということが実感できる機会を多く創出します。
- (方向性5)高齢者の知恵や力を社会に活かす、生きがい事業を展開します。

課題⑤ 人と人がネットワークで結ばれた地域にしていく必要があります。

- (方向性1)地域をあげて福祉活動に取り組める体制を構築します。
- (方向性2)地域のなかで、それぞれの世代が果たすべき役割を認識・確認でき、横のつながりを強化できる機会を創出します。
- (方向性3)ひとり暮らしの高齢者などを孤立させない取り組みを行います。
- (方向性4)こまめに顔を合わせたり、声かけを習慣化する事業を展開します。

●重点事業

1	地域内交通の導入を推進します。(課題①-方向性1)
2	民生委員、福祉協力員、自治会長が連携を図るとともに、自治会内に福祉分野を専門に活動する組織を設置し、従来の福祉支援活動に加え、引きこもりがちな高齢者や高齢者家庭への福祉支援の充実など、きめ細かな地域の見守り活動を行います。(課題①-方向性2)
3	民生委員、福祉協力員、民間会社の福祉活動による様々な方面からの声かけ運動を連携・一元化します。(課題①-方向性3)

10年後のあるべき姿は・・・

社会の一員としての意識が高い住民が、協力的な地域を形成し、安心・安全の取り組みを継続的に行っていきます。

課題① 自主（自守）防犯意識を地域全体に浸透させ、犯罪抑止力を高める実践活動に取り組む必要があります。

- (方向性1) 日常的・組織的・継続的に、気軽に無理なく取り組める防犯活動を行います。
- (方向性2) 防犯意識の高揚を図る事業を展開します。
- (方向性3) 緊急情報がリアルタイムに発信・受信できる事業を展開します。
- (方向性4) 犯罪者に狙われない地域にする環境整備事業を展開します。
- (方向性5) 子どもへの犯罪防止と子どもたちの安心感を高める活動を行います。
- (方向性6) 子どもたちが「地域に守られている」という感謝の気持ちを表す事業を行います。
- (方向性7) 広域的に自治会が連携し、犯罪抑止力を向上させる取り組みを行います。

課題② 日ごろからの防災に対しての備えを徹底させるため、防災意識を地域全体に浸透させ、防災行動力を高める活動に取り組む必要があります。

- (方向性1) 地域ぐるみで防災意識の高揚と行動力の向上を図ります。
- (方向性2) 災害時要援護者支援制度を活用し、災害時において機能する自主防災組織づくりを推進します。
- (方向性3) 個人レベルでの「日ごろからの備え」を啓発する活動を行います。
- (方向性4) 災害を最小限に食い止める取り組みを行います。

課題③ 交通弱者にも配慮した、誰もが安心して生活できる道路交通環境を整備する必要があります。

- (方向性1) 暮らしのなかでの危険情報を周知する活動を行います。
- (方向性2) 運転者と歩行者双方に交通安全意識を高揚させる事業を展開します。
- (方向性3) 交通規制により歩行者や自転車利用者の安全な生活空間を確保します。
- (方向性4) それぞれの世代に応じた交通安全教育を推進します。
- (方向性5) 交通弱者も安心して生活ができる地域を形成します。

課題④ 地域全体の安心・安全の確保に向け、地域情報の共有化とネットワークの形成を図る必要があります。

- (方向性1) 地域の総力を挙げて防犯活動の推進を図ります。
- (方向性2) 地域内の安心・安全情報を一元化する仕組みを構築します。
- (方向性3) 誰でも情報が取得・共有できる仕組みを整備します。
- (方向性4) 複数の自治会など広域に渡る課題に対し、横断的に連携を図り、解決できる体制を整備します。

課題⑤ 地域住民の絆を深め、「自分たちのまちは自分たちで守る」活動を実践する必要があります。

- (方向性1) 高いモラルで、ルールを守る地域にする事業を行います。
- (方向性2) 「自分たちのまちは自分たちで守る」という地域社会の一員であるという意識を高める事業を行います。

●重点事業

1	地域ぐるみで「帰宅後3分間パトロール」や防犯腕章の常時装着、苦にならない「ながらパトロール」（散歩、犬の散歩など）を推進します。（課題①－方向性1）
2	一人でも多くの住民が参加する防災訓練を実施します。（課題②－方向性1）
3	防犯ネットワークや各自治会の連携の強化、情報の共有化を図ります。（課題④－方向性1）

10年後のあるべき姿は・・・

夢や希望と学ぶ意欲、そして、道徳心と奉仕の心を持った心身ともに健康な子どもたちが、郷土に愛情と誇りを持ち、仲間と協力しながら、いきいきと活動できるように地域ぐるみで取り組んでいます。

課題① 社会のきまりを守り、奉仕の心を持った道徳的実践力のある子どもを育てる必要があります。

- (方向性1)コミュニケーションを図る運動を展開します。
- (方向性2)感謝する気持ちを持った子どもを育てる活動を行います。
- (方向性3)子どもも社会の一員となるための活動を行います。
- (方向性4)子どもが地域に貢献できる取り組みを行います。
- (方向性5)マナー遵守の運動を地域で展開します。

課題② 学ぶ意欲と夢や希望を持った子どもを育てる必要があります。

- (方向性1)子どもが夢や希望を持つヒントとなる事業を展開します。
- (方向性2)子どもの勤労意欲・就業意識・自立心を高めるための事業を展開します。
- (方向性3)より身近なところでの学力の向上を図る機会を創出します。

課題③ 健康で生活できる体力と思いやりの心を持った子どもを育てる必要があります。

- (方向性1)丈夫な体づくりと地域内交流を図るための取り組みを行います。
- (方向性2)子どもが心身ともに健やかに育つ土壌づくり事業を展開します。
- (方向性3)お互いの支えあいを知るための事業を展開します。
- (方向性4)スポーツや文化活動に親しめる環境をつくります。

課題④ 多くの仲間と協力し、地域に誇りを持ちながら、いきいきと活動する子どもを育てる必要があります。

- (方向性1)地域ぐるみで「わがまち意識」と「参加意識」を高める事業を展開します。
- (方向性2)育成会事業に多くの参加が得られるよう工夫改善します。
- (方向性3)地域を意識させる取り組みを行います。
- (方向性4)地域で協力しあえる活動を子ども会単位で行います。

課題⑤ 住民や家庭、地域関係団体が連携し、地域を支える力と教育力を向上させ、郷土愛に満ちた住民主体のまちづくりの仕組みを構築する必要があります。

- (方向性1)地域で子どもを取り巻く問題を共有します。
- (方向性2)地域をあげて、子どもの異常を早期に発見する仕組みを構築します。
- (方向性3)地域の教育力を向上させる事業を展開します。
- (方向性4)学校・地域・家庭が連携を図り取り組む事業を展開します。
- (方向性5)生涯学習を通して、「まちづくり」を積極的に担う人材を育成します。

●重点事業

1	「まずは、あいさつから」を合言葉に、地域ぐるみで「あいさつ運動」や「ありがとう運動」を展開します。(課題①－方向性1・2)
2	子どもも参加した一斉清掃活動を展開します。(課題①－方向性3)
3	地域の協力により、中高生に職場を知る・見る・聞く機会を創出します。(課題②－方向性2)

歴史・文化

10年後のあるべき姿は・・・

歴史・文化の共有・保存・継承・活用・発信と文化の創造を通して、文化の薫るまちを形成し、住民は、地域に対して、「誇り」と「愛着」を感じています。

課題① 地区内の歴史・文化を知り、学び、そして共有する必要があります。

(方向性1)「遺跡や文化財マップ」の再整備事業を展開します。

(方向性2)地区内の歴史・文化を「見る・知る・学ぶ」機会の創出を図ります。

(方向性3)地域の歴史・文化の素晴らしさを発信する取り組みを行います。

課題② 地区内の歴史・文化を保存、継承、活用、発信していく必要があります。

(方向性1)地区内の歴史や文化財や古道具、ゆかりのある人物と地域との関わりをPRする事業を展開します。

(方向性2)地域色を出した歴史や文化財の関連イベントを開催します。

(方向性3)親しみやすい歴史や文化財にする事業を展開します。

(方向性4)有形無形、指定未指定に関わらず、それぞれの歴史・文化の保存・継承する活動を行います。

(方向性5)地域の歴史の継承活動を行います。

課題③ 文化に触れ、文化を創造する風土をつくり、文化活動への動機付けとなるような取り組みをする必要があります。

(方向性1)子どもたちが優れた芸術文化に触れる機会を拡充する事業を展開します。

(方向性2)地域にゆかりのある文化に触れる生涯学習講座を開講します。

(方向性3)子どもの展覧会入選作品や芸術祭出展作品などを展示する場を創設します。

課題④ 地域の歴史・文化を活用し、地域に愛着と誇りを感じることでできる活動に取り組む必要があります。

(方向性1)姿川の歴史・文化を「自分たちで繋いでいく」という心を育てる活動を行います。

(方向性2)子どもころからの郷土愛の醸成事業を展開します。

(方向性3)地域の人材を活用し、身近なところでの伝承活動を行います。

●重点事業

1	「姿川散歩」等を再整理します。 (課題①－方向性1)
2	子ども会・育成会の事業などに、市芸術祭の鑑賞事業を加えます。 (課題③－方向性1)
3	「姿川歴史・文化の日」を制定し、その日に個々の歴史文化財の清掃活動を全員参加で実施します。 (課題②－方向性1)



10年後のあるべき姿は・・・

「自分たちのまちは、自分たちでつくる」という共通理念と奉仕の精神のもと、組織的に課題を解決しながら、全員参加のまちづくりを実現しています。

課題① 自分の生活とともに、地域を考え、進んで地域と関わる住民を育てる必要があります。

- (方向性1) お互いの気持ちがわかりあえる取り組みを行います。
- (方向性2) 共助の精神の「気づきの機会」を創出する取り組みを行います。
- (方向性3) 地域の一員としての自覚と愛着を創出する取り組みを行います。
- (方向性4) 市の目標値を上回るよう、自治会の加入促進活動を行います。

課題② 心が通い合い、強い絆で結ばれる環境をつくる必要があります。

- (方向性1) 日常的に、気軽に人が集まり、会話が生まれ、楽しい場をつくります。
- (方向性2) 世代を超えた人との交流、人との輪を広める取り組みを行います。

課題③ 地域の課題をみんなで共有し、自ら解決するという仕組みづくりを構築する必要があります。

- (方向性1) まちづくり機能が強化され、構成団体との連携を十分に取っていきます。
- (方向性2) 住民のニーズが的確に捉えられ、多様な人材が参画し、経験や見識を活かし、まちづくりへと大きな活動に広がっていきます。
- (方向性3) 地域の誰もが情報を取得、共有でき、そして意見交換できる仕組みをつくります。
- (方向性4) 最大の構成団体である自治会が、円滑に運営(単独・協調共に)できるよう、サポート機能を充実させます。

課題④ 奉仕の精神に満ちた地域活動への参加意識を高める必要があります。

- (方向性1) 住民の参加促進のための取り組みを行います。
- (方向性2) 自治会等各団体の活動に“おもしろさ”、“やりがい”、“生きがい”を感じることのできる風土づくりを行います。
- (方向性3) 各活動を評価、共有し、活動の活性化に結びつける仕組みをつくります。

●重点事業

1	まちづくりの主体と構成団体との関係を明確にし、「役割」・「機能」・「事務局の設置等の体制」を整えます。 (課題3－方向性1)
2	ひとり“1”ボランティア事業に取り組みます。 (課題1－方向性2)
3	地域内に人が集まる“居場所”を設置し、班単位やグループ間でふれあいの場づくり等を推奨します。 (課題2－方向性1)

